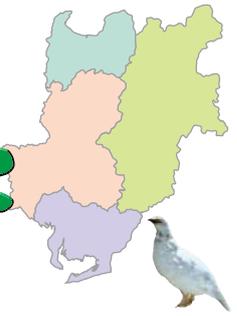




国民の森林・国有林

広報

# 中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



中野小学校における出前授業の様子



2011・国際森林年

## 指導普及課と北信署が合同で

# 児童と保護者に「出前授業」を実施

(P4~5に関連記事)

主な項目	○ 「長野市環境子どもサミット」に環境体験コーナーを出展 .....	P3
	○ ラジオ番組で国有林をPR .....	P3
	○ 風景紀行「有明山」 .....	P8

平成二十二年 度

第二回署長等会議を開催

「企画調整室」十一月十七日(水)～十八日(木)、森林管理局において署長等会議が開催されました。

会議においては、十月三十日に行われた行政刷新会議における特別会計の事業仕分け等を受け、十一月五日に開催された局長会議等を踏まえ、今後の事業運営等について会議が行われた。

全体会議では、城土局長及び竹林次長から

- ① 国有林野事業特別会計の事業仕分け、② 森林・林業再生プラン、③ 生物多様性の保全への取組推進、④ 国際森林年、⑤ 収入の確保及び適切な予算執行、⑥ 森林整備事業の適切な実施と予算の着実な執行、⑦ 法令等に基づく各種手続きの確実な履行、⑧ 綱紀の肅正等について訓辞が行われた。

会議の中では、事業仕分けにおいて、「負債返済部分とその他の部分について人件費の帰属等を含め早急に検討していただき国民の負担が決して増えない形での切り分けを前提として、特別会計を一般会計化する。」との取りまとめがされ、一般会計化に向けて具体的な検討がされる中において、より国民から評価され、信頼される国有林野事業であることが求められる重要な時期となること、森林・

林業再生プランの最終報告が予定され、プランの着実な実行が求められることになることから、局署一体となつて適切な業務運営に努めるよう各種指示が行われました。



署長等会議で訓示する城土局長

平成二十二年 度

国有林モニター会議の開催

「企画調整室」十二月七日(火)、東濃森林管理署(岐阜県中津川市)において、「平成二十二年中部森林管理局国有林モニター会議」を開催しました。

国有林モニター会議とは、幅広い国民の皆さまの声をお聴きし、開かれた「国

民の森林」にふさわしい国有林野の管理・経営を推進するため、平成十六年度から進めている取り組みです。

会議には、全三十名のうち管内一円からお集まりいただいた十一名のモニターの皆さまと、当局から計画部長、森林整備部長、東濃森林管理署長等が出席しました。

午前中は、東濃森林管理署長より署の概要説明のあと、二十年に一度行われる伊勢神宮の式年遷宮に必要な材を供給する木曾ヒノキ備林の視察を行いました。モニターの方からは、「通常では見られない備林を見学できて感激しました。」などの感想をいただきました。

午後は場所を「東濃森林管理署会議室」へ移し、中部森林管理局の事業概要等の



木曾ヒノキ備林での記念撮影



会議室に場所を移して意見交換

説明、事前に聴取したモニターの皆さまからのご意見やご質問にお答えした後、意見交換を行いました。

モニターの皆さまからは、「今日のような現場を見ながらの説明を、モニターとなった後すぐに行つてほしかった。」「森林に関心のない都会の者に、もっと関心を持たせる工夫がほしい。」「国産材を使いたかったが、価格等の制約から外材を使った。」など貴重なご意見をいただきました。

今回の会議でいただいた意見を、これからの国有林野の管理・経営に活かしていきたいと考えています。

# 「長野市環境子どもサミット」 に環境体験コーナーを出展

「指導普及課」十一月十三日(土)、「第十五回 長野市環境子どもサミット」が長野市生涯学習センターで開催されました。サミットを通じて、子供たちに環境活動への関心と意欲をさらに高めていただくとともに、より多くの市民の皆さんが、身近な環境や地球環境に関心を向け、具体的な行動を起こす機会となることを目的としたもので、当局からは環境について楽しみながら体験し学習する「環境体験コーナー」に、国土防災技術株式会社と協同で「ドパスアートに挑戦(地球のカケラで絵を描こう)」を出展しました。



本サミットは、平成八年から長野市が中心となつて開催され、中部局も毎年「環境体験コーナー」に参加しており、今年も信州大学のほか、多くの団体・企業等が「環境体験コーナー」に出展、参加しました。



中部局の環境体験コーナー

会場には、市内の小学校等の子どもエコクラブの子供たちや、家族・親子連れを中心とした多くの市民が訪れ、中部局出展の「ドパスアート」にも、「本来であれば廃棄物となつてしまう土や粘土を再利用して作ったパステルを使って絵を描く」という、珍しい環境体験ができることもあり、小さな画家たちがドパスで指を真黒にしなが、素晴らしい絵を描いていました。

今年 サミットから、来場者の投票により、一番好評であった「環境体験コーナー」に贈られる「ベストブース賞」が創設され、第一回の「ベストブース賞」に、中部局・国土防災技術株式会社協同出展の「ドパスアートに挑戦(地球のカケラで絵を描こう)」が選ばれました。



第一回ベストブース賞に選ばれ記念撮影

「中信署」当署が管轄する中信地区の国有林は、檜・穂高連峰や白馬岳等の山岳、上高地、乗鞍、美ヶ原等の景勝地を抱え、全国各地や海外から多数の者が訪れる我が国トップクラスの登山・山岳観光の地であります。このため、高山植物等の貴重な自然の保護や登山・入山マナー等の啓発の必要性は高く、従来からGP、G

## もりりん 森林教えてく ラジオ番組を活用した 国有林PRを実施

SS、高山植物等保護連絡協議会等の活動に加え、局HP等による情報提供も行ってきました。一般国民の認知度はまだ低い状況にあります。

特に、昨年五月に貴重な高山植生等を消失させた白馬岳の山火事は、山岳スキーヤー等の火の不始末が原因と推定されており、普及啓発の必要性が益々高まっています。

このような実態を踏まえ、当署としては、様々な機会を通じマスコミ関係者に対して普及啓発を要請してきたところですが、今般、SBCラジオを活用した国有林PRをアクションプログラムの一環として位置づけ行うこととしました。

ラジオ放送は、主婦・農作業時・工場・商工関係・自動車内等において数多く聴かれ、特に長野県内では山岳に関心のあるリスナーも多く、国有林のPRの場としての活用に適しています。

放送は、SBCラジオの「YOUスタ深志3丁目」の番組で、十月二十九日の第一回から毎月月末の金曜日に一回ずつ全六回を予定しています。

放送内容は、「森林教えてく」との企画で、中信署の職員等が山本アナウンサーと掛け合いで国有林の様々な活動や森林・林業・自然、高山植物の保護及び登山マナー、獣害や外来種、治山等でPRを行います。

業務の合間に中信署職員と山本アナウンサーの掛け合いを楽しんでください。



第 1 回の放送で出演した下平署長と山本広子アナ

■放送スケジュール

- 第一回 十月二十九日(金) 当署署長が出演し、国有林や森林管理署の業務、山岳地帯の管理などについて話をしました。
- 第二回 十一月二十六日(金) 当署業務課長が出演。「増えすぎたシカの住処が広がった」
- 第三回 十二月二十四日(金) 当署業務課長と他署員が出演予定。「間伐は山を守るために必要」
- 第四回 一月二十八日(金) 当署員と他署員が出演予定。「外来植物の除去も大切な仕事」
- 第五回 二月二十五日(金) 当署員と他署員が出演予定。「人にやさしい木材」

第六回 三月十八日(金) 当署員と他署員が出演予定。「住居を守る治山工事」

各地からのたより

上市町議会議員が

国有林の治山事業地を視察

「富山署 十一月十日(水)、上市町議会(産業厚生常任委員会)が早月国有林において治山事業の視察を行いました。

上市町を流れる全国屈指の急流河川「早月川」は、剣岳登山口の馬場島までが特に急峻で、土砂災害の起きやすい地形であり、山腹崩壊地や溪岸浸食が多数存在しています。このため、当署では下流域住民の安心・安全のために、森林の



ジオラマを使用しての説明を聞く議員の皆さん



雪の中、白萩川(山腹工)を視察する議員の皆さん

持つ公益的機能を十分發揮させ、防災機能を維持増進させるための治山事業を計画的に実行してきています。

当視察については、同町議会からの、「町内の奥地で行われている国有林の治山事業は、下流にとって大事と聞いてはいるが、一般に見ることができないのでぜひに」との要望から実施したもので、同会委員長始め総勢十三名が参加しました。

午前には町発注の道路工事等を視察した後、午後に馬場島荘において同荘に設置してあるジオラマを使用して当署の概要と上市町内の治山事業について説明しました。

その後、ミニバス等に分乗し、白萩川の施行地に出発しました。白萩川の

現地では、あいにく雨から雪への天気となりましたが、本年度完成した山腹工と床固工を視察し、次に、小又川の施工現地に移動し、これまでの長年にわたる治山事業の実施状況と今後の計画等を説明しました。

議員の皆様からは、「実際に町奥地の治山事業を直接見ることができ、これほどの工事をしてに驚いた。」「地域住民のために国有林が治山事業を執行していただきありがたい。」「町としても今後も協力していくのでよろしくお願ひしたい。」などの意見があり、治山事業への理解を深めていただけようです。

北信地域の小学生を対象に

「出前授業」を開催

「指導普及課・北信署」

十一月十八日(木)、中野市内の中野小学校において、三年生の二クラスの児童・保護者、総勢約百三十名(児童六十五名)の皆さんを対象に、指導普及課及び北信森林管理署共同による「出前授業」(森林教室)を開催しました。

今回の「出前授業」は、三年生から四年生への進級に伴い、クラス替えとなるため、現クラスのみんなの思い出として、「記念になるものを、ぬくもりのある木を使って作りたい。」という児童の皆さんの希望と、「ノコギリの使い方等の学習や間伐材を使つてのクラフト作り等を通じ、木とのふれあいや自然の大切さを感じ

じさせたい。」という先生方や保護者の方々の思いに応えたもので、ヒノキの間伐木を使つてのノコギリ体験や鉛筆立て作り、ネイチャーゲームを行いました。



ネイチャーゲームの様子

当日は、学校の周囲の山々が雪化粧をする程の寒空でしたが、児童の皆さんの笑顔と元気な声が会場いっぱい飛び交い、寒さも吹っ飛んでしまうほど、とても賑やかな授業となり、ノコギリ体験や鉛筆立て作りでは、児童の皆さんが、慣れない手つきながら一生懸命にノコギリを使い、時折、父母の方々の力を借りながら、この世にひとつだけの鉛筆立て作りに取り組み、無事、児童の数と同じ六十五個の鉛筆立てが完成しました。

またネイチャーゲームでは、校庭の林や庭園内の宝物さがしを行い、親子がひとつになって、協力しながら、自然とふれあいを楽しんでいました。



中野小学校の出前授業（記念写真）



### 長野県作業路作設マニュアル作成検討委員会が現地視察

〔東信署〕十一月二十六日(金)、「長野県作業路作設マニュアル作成検討委員会(委員長・酒井秀夫東京大学大学院農学生命科学研究科教授)」による現地視察が長野県上田市菅平国有林の森林環境保全整備(保育間伐活用型)事業地で行われました。長野県では、現場で事業を実施する技術者の技術の向上と森林整備の推進に資することを目的に、「長野県森林整備作業路作設マニュアル」を作成するとしているところです。

このマニュアルでは、南北に長く、また地質・地形条件も複雑である長野県の地域特性を考慮し、県内全域で共有でき、かつ山を壊すことなく、長期間使用でき



実際の路網作設状況を踏まえ視察

る道づくりの作設技術をとりまとめることにしています。

当日視察が行われた現地は、本年度、信州上小森林組合が「低コスト路網・高効率作業システム」により請負事業を実施したところで、視察においては、東信署(署長、間伐推進企画官)から事業の概要及び作業路作設の考え方について、また、事業の実行担当者で検討委員会委員でもある信州上小森林組合の中村武志さんから路網作設の実行状況について説明を行い、実際の路網の作設状況を踏まえた現地検討が行われました。

### 南木曽町の森林について学ぶ

—南木曽小学校ふるさと学習を実施—

〔南木曽支署〕南木曽小学校三年生三十五名を対象に「ふるさと学習」に伴う森林教室を開催しました。

この森林教室は小学校の総合学習の一



検討委員会の現地検討の様子

環で当支署に依頼があり、十月二十日（水）に南木曽国有林において自然散策を兼ねながら、森林の役割や大切さを伝えるなどしながら、林道沿線の草や葉で「森の万華鏡づくり」を楽しみました。



森の万華鏡の材料を採取

また、十一月四日（木）には賤母国有林「檜皮の森」において、伝統文化財の建物の屋根に利用されている檜皮の採取の様子を、公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会の案内で見学しました。

原皮師によるぶり縄を使った木登りの実演、檜皮を採寸する作業の見学や子供たち自らぶり縄を使っての木登りの体験などを行い、続いて、三殿土場に移動して、並べられた木材の様子を見学して、森林・林業の大切さを学んで森林教室を終了しました。

児童からの感想は「ぶり縄で三十メートル登るのすごいなあと思った」「ヒノキの皮に油があるなんて知らなかった」などの感想が聞かれました。

南木曽支署として「檜皮の森」をはじめとした「木の文化を支える森づくり」などのフィールドを活用した森林環境教育を今後も関係者と連携を図りながら積極的に進めていきます。



ぶり縄を使った木登り体験

**南木曽町制施行五十周年事業**

**地域住民と「伊勢山登山」**

「南木曽支署」十一月三日（水）、南木曽町制施行五十周年事業「伊勢山記念登山」を南木曽支署主催で三殿向国有林において開催し、南木曽町住民五十名が参加しました。

伊勢山は木曽川右岸に位置し、身近な山ではありますが、登山道もないことから登ることができなく、町内から見上げる存在でした。

伊勢山の登り口はその昔、柿其地区から田立地区へ抜ける柿其峠として、古道が利用されていましたが、近年では利用する人がほとんどいませんでした。

この事業は、森林官発案により柿其森林事務所職員が森林整備に伴い歩道を整備する中で、住民の方々に親しんでいただくとうと計画を実施したもので、実施にあたっては、当支署、南木曽町など関係機関が協働する中で準備や運営などを行ってきました。

当日は、御嶽山が雪化粧をするなど肌寒い中ではありましたが、前日の雨模様とは打って変わっての晴天に恵まれ、参



山頂から町を望む参加者



山頂からの景色（南木曽支署も確認できます）



参加者全員で記念撮影

加者は晩秋の登山を楽しみました。参加者からは「近くに登山を楽しめる

ところが、よかった」「伊勢山は身近であり一回は登ってみたかった」などの感想も出され、地域から感謝されるなど、多くの成果がありました。

今後もしっかりとした地域との関わりや地域目線を大切にしながら諸事業に取り組みたいと考えています。

### 第十五回 NCF 事業

「名古屋事務所」十一月十三日(土)、今年度最後となる名古屋シティ・フォレスト事業を愛知森林管理事務所管内の八曾国有林において、「林内に光を取り込み元気な林に育てよう」として間伐作業を実施しました。

間伐作業は、森林整備の充実感からか、毎年人気の企画ですが、安全と区域面積の関係から、募集人数が限られてしまいます。今回も十五名の募集に対し三十八名の応募があり、抽選による選定となりました。



伐倒の指導を受ける参加者の皆さん

ました。

当日は爽やかな秋晴れの絶好の作業日和となりました。

初めに作業の方法、安全についての説明のあと、三班に分かれての作業を行いました。現地は傾斜があるため、足元に注意しながら、伐倒方向を定めて行いましたが、ほとんどかかり木となったため、木回しを使つての処理と手鋸での作業に汗をかきながらの作業となりました。

午後からは伐採、玉切りしたものを搬出しました。肩に担いでの搬出に、最後の一汗をかいていただき終了となりました。

参加者からは、「もっと伐りたかった」「来年も同じ作業がしたい」などの声をいただきました。搬出した丸太は、来年度のイベント等で木工クラフトなどに有効利用する予定です。

## シリーズ 現場最前線

### 点在する国有林で幅広く業務を実施

#### 「愛知森林管理事務所豊橋森林事務所」

豊橋森林事務所は、愛知県東三河の中心都市「豊橋市」に位置し、中部局管内最南端に位置する豊橋国有林をはじめとして豊橋市・岡崎市・新城市に点在する七箇所の国有林約二、四〇〇畝と官行造

林地二五畝を管理しています。

管内国有林はそのほとんどが都市近郊林であるため遊歩道が整備されており、豊橋市や浜松市から多くのハイカーが訪れます。また、民家等が国有林と隣接している箇所も多く国有林の保全管理には注意を払います。



境界刈払を行う職員

作業班は臨時を含め二名で、歩道修理、森林調査、境界管理、防火対策等の森林保全管理業務や林道維持作業を行っています。温暖な地域に属するため天然林ではシイ・カシ・クヌギなどの高木、林内にサカキ・ヤブツバキなどの常緑広葉樹が繁茂しており、これらの硬い木本類の刈払作業が多く、また、アカマツなどの枯立木伐倒作業など、適切な振動機械の使用とともに確実に安全作業を行うよう十分注意して実施しております。毎朝当

## 人のうごき

### 中部森林管理局人事

日の作業・行動の打ち合わせを行い、市街地に所在する事務所から現場まで多岐に変化する道路状況に応じて交通安全五則を遵守し勤務しています。

昨年は台風十八号の襲来により、風倒森林被害が発生し、その調査及び処理には大変苦労しましたが、今年は今のところ自然災害もなく、「ホッ」としているところです。

ひとまず「年度内無事故・無災害」を森林事務所三名の目標として取り組んでいきます。

十一月一日付

▽東信森林管理署業務第二課付(東信署業務第二課森林育成係長) 鎌倉 浩一

十二月一日付

▽北信森林管理署業務課森林ふれあい係長(北信署業務課付) 百瀬 結

▽東信森林管理署業務第一課森林ふれあい係長(東信署業務第一課付) 下城さおり

## 行事・会議等の予定

### ◎民有林治山事業打合せ

1月6～12日 長野市(局)

### ◎事業担当課長会議

1月17～18日 林野庁

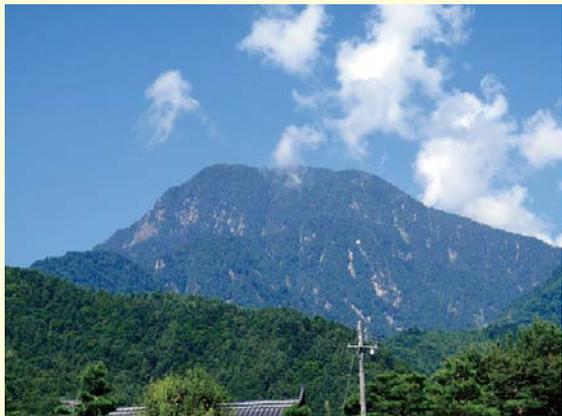


### 有明山

【中信署】長野県安曇野市の中房国有林にある有明山は、北アルプスの前衛に位置し、「北岳」「中岳」「南岳」の三峰から成り立ちます。三角点は北岳と中岳の間にあり、標高は二、二六八メートルとそれほど高い山ではありませんが、安曇平から見える姿が富士山に似ていることから「有明富士」「安曇富士」または「信濃富士」などと呼ばれています。

古来より歌枕として「かたしきの衣手寒く時雨つつ有明山にかかる白雲」と和歌に歌われ、「安曇節」の一節に「なを思案の有明山に小首か上げて出たワラビ」とあることから、昔から地元の人々に親しまれている山だということがわかります。

また、有明山には伝説があり、天照大神が岩戸に籠もって天下が暗闇になったとき、手力雄命がその岩戸を投げ、この地に落ちた岩が山になったとされています。その際、天下が再び明るくなったことが山名の由来だといわれています。



麓から望む有明山

そのため、山岳信仰の山としても知られており、山麓には有明山神社が置かれ、山頂にも奥社があります。毎年七月には神社主催の参拝登山も行われており、多くの人々が奥社まで参拝をしています。山頂までは、黒川沢を登る「表参道」、県道中房線（通称）の終点付近から登る「裏参道」、松川村の馬羅尾国有林から登る「松川コース」の三つのルートがあります。

どの登山道も急峻で、登山口から山頂までは四時間から五時間以上は掛かり、避難小屋等も無いため、体力に自信がない方や山登り初心者には、ちょっと難しい山ですが、登山道沿いには小さな滝がいくつもあり、山頂からは北アルプスの燕岳や大天井岳を望むことができます。また、六月頃にはピンクや白色のシヤクナゲの花が咲き、登山者の疲れを癒してくれます。



妙見滝 (表参道)

- ◆アクセス  
(所在地) 長野県安曇野市穂高有明
- 表参道口  
豊科インターから国道一四七号を経て中房方面へ  
有明山神社から車で約五分
- 裏参道口  
表参道口よりさらに中房方面へ  
県道中房線（通称）終点の登山者用駐車場へ  
有明山神社から車で約三十分
- ※県道中房線（通称）は、十二月上旬から四月下旬まで冬期間閉鎖
- 松川ルート  
豊科インターから国道一四七号を経て松川村馬羅尾キャンプ場方面へ  
JR大糸線「信濃松川駅」から車で約二十分



不動滝 (松川コース)



たる沢の滝 (裏参道)



白河滝 (表参道)